

て樹木はほとんど見ることが出来ない。しかしあつては附近にも数多くの樹木が繁茂していたと見え、現に地質時代に生存していた朝鮮ハリモミ、満州カラマツ、エゾマツ、ビャクシンなどが自然に自生していた形のままで浮石層の下、または永久凍土層中に炭化木または氷漬標本となってところどころから発見される。これらは全部一度は地層中に埋没されたが、その後長い年月にわたり削剥作用をうけて、その一部が地表に現われたもので、植物学者や化石学者の研究意欲をいやが上にもかき立てている”。この発見が機縁となって後年私がアラスカ極地の調査を行なうに当り、永久凍土層(Permafrost)に关心を抱き、この中に生きている菌類の胞子や高等植物の種子の調査を行なうに至ったのである。

最後に菌類調査に当って行を共にし、また私の調査に協力して下さった故 小倉 勉、故 遠藤隆次、故 木場一夫、故 村山釀造、故 成沢多実也、故 万代源二、竹内 亮、阿部 裕の諸氏に厚く感謝したいと思う。

Summary

In 1942 and 1943, the biological and geological exploration was held in the Mt. Chang-pai-shan situated in boundary region between North China and North Korea. The writer joined the party and could find many interesting fungi in this mountain. As almost all of the fungal specimens were lost during the 2nd World War, the writer gave a brief sketch of the expedition based on his field notes. Almost all of the members of this party deceased during the last forty years. This paper is dedicated to them.

□Levring, Tore: **Xth international seaweed symposia proceedings (1980).** 780 pp. 1981. de Gruyter, Berlin. ¥27,300. 1980年にスウェーデンで開催された第10回国際海藻学会議の講演集である。アルギン酸の生合成、海藻の光生物学、褐藻の性誘引物質の役割、カリフォルニア沿岸の大形海藻の移植と栽培、南アメリカにおける海藻利用の開発、紅藻の化学と利用および中国の海藻栽培の7編の特別講演の内容を収めた第1部と分布・形態・分類、生態、生理・生化学、栽培、応用・技術の5部門に分かれて行われた計92編の一般講演からなる第2部とで構成されている。10回を迎えたこの会議は一時期、藻学一般の研究成果の場とする傾向も見られたが、純理学的研究の討論は新たに発足した国際藻学会議にゆずり、この第10回から再び当初の海藻の利用・人類への寄与のテーマを中心とする会議となった。今回の講演集からもその方向が汲みとれる。最近の海藻研究の方向を知る参考書ともなる。

(千原光雄)